

二化性養蚕をインド全土へ、そして世界へと広げる

山田浩司

現地国内研修

二化性養蚕プロジェクトと並行し、第 2 期の実用化のフェーズの頃から、その成果を南インド 3 州だけではなく、国家養蚕開発計画（NSP）で規定された他の伝統的養蚕州や新興養蚕州の一部にまで拡大させようという取組みも見られるようになってきた。本文でも紹介したとおり、元々中央蚕糸研究訓練所（CSR&TI）などでは研修も行われていたので、プロジェクトを通じて新しい技術を学んだカウンターパートが、今度は講師となってそれを研修生に伝えるというのは難しいことではない。

各州から職員が参加し、中央蚕糸局（CSB）傘下の研究・研修施設で 2 週間程度、二化性養蚕の各技術面での研修を実施するというもので、このプログラムは「現地国内研修」と呼ばれて 1999/2000 年度から始まり、プロジェクト第 3 期が終了する直前の 2006/07 年度まで 8 年間にわたって実施された。JICA はこの研修実施を資金面で支援した。

現地国内研修の科目は当初、蚕品種維持増殖、カイコ飼育、蚕病防除、桑栽培、養蚕普及活動運営管理の 5 分野にわたり、それぞれの科目について、州蚕糸局の養蚕普及指導員と CSB の技術スタッフが研修を受講する。対象州としては南インドの 3 州に加え、マディヤ・プラデシュ州、西ベンガル州、ジャム・カシミール州が含まれる。いずれも州内の一部地域では二化性養蚕に適した気候条件を有する。3 年間の延長が認められた 2004/05 年度からは、さらに、ケララ、オリッサ、マハラシュトラ、グジャラート、ウッタラーカンドの 5 州が対象州として加わり、分野としても製糸関連コースが新たに設置されている。

実施期間延長後の現地国内研修実績（2004/05～2006/07 年度）

年度	研修コース名	実施機関	研修期間	回数	受講者合計
2004/05	桑栽培・カイコ飼育	CSR&TI	60 日間	2 回	32 人
	稚蚕飼育	CSR&TI	30 日間	2 回	26 人
	蚕病防除	CSR&TI	30 日間	2 回	30 人
	養蚕普及活動運営管理	CSR&TI	30 日間	1 回	15 人
2005/06	桑栽培・カイコ飼育	CSR&TI	60 日間	2 回	29 人
	稚蚕飼育	CSR&TI	30 日間	2 回	27 人
	蚕病防除	CSR&TI	30 日間	2 回	29 人
	養蚕普及活動運営管理	CSR&TI	30 日間	1 回	22 人
2006/07	桑栽培・カイコ飼育	CSR&TI	60 日間	1 回	15 人
	蚕育種	CSR&TI	60 日間	1 回	12 人
	蚕病防除	CSR&TI	30 日間	1 回	18 人
	蚕種商業生産	SSTL	30 日間	2 回	30 人
	生繭検査・格付け	CSTRI	30 日間	1 回	13 人
	繭加工と繰糸	CSTRI	30 日間	1 回	15 人
	合計				303 人

〔出所〕山本俊雄 2007、「インド養蚕普及強化計画長期専門家業務完了報告書（研修担当）」、

2007 年 8 月、p.30

こうした研修でプロジェクトの日本人専門家が直接講師を務めるようなことはなかったが、1ヵ月近くにもなる長期の研修の場合、北インドから来た研修生のレクリエーションのため、ピクニックなどのイベントには専門家もたびたび同行したという。

第三国研修

近年、農民の貧困撲滅に効果的な産業として養蚕に注目する国が増えている。アフリカやアジアには気候的には養蚕に適している国もあるが、これらの国々では、①養蚕がシルク産業を含めた一貫した産業として育成・確立されていない、②技術普及員の層が薄い、③カイコの病害などの技術指導をタイミングよく行える専門技術者が不足しているといった問題点が指摘されてきた。このため、日本が有する最新の技術を導入する以前に、自国の絹製品の現実的需要を前提とした生産構造を確立することが先決だと考えられている。農民が経済的・技術的に持続可能な養蚕技術を導入し、カイコや桑の病害対策などにきめ細かく応えられる普及システムを確立することが、農民に安定的な生産と収入をもたらすと期待される。

このため、CSB では、技術協力プロジェクト終了後の 2007/08 年度から、アジア・アフリカ諸国を対象とした二化性養蚕技術研修を開始し、JICA もこれを 20011/12 年度までの予定で支援している。研修コースは行政官向けの 2 週間コースと、技術者向けの 12 週間コースがあり、行政官はインドの蚕糸業の実態を概観し、中央・州レベルの支援政策や人材育成策、技術普及システムについて学ぶ。技術者研修では、現地視察によって新旧の養蚕技術を比較し、新技術の利点について理解を深めた上で、関連する技術体系を講義と実習を組み合わせで学ぶ。ほぼ毎年研修員を派遣しているのはガーナやウガンダ、ケニア、マダガスカル、ネパール、フィリピンといった国々で、これに加えてナイジェリア、カンボジア、ラオス、インドネシア、キルギスなどから研修員の参加実績がある。

二化性養蚕技術第三国研修の実績（2010/11 年度現在）

年度	参加者	コース	参加国
2007/08	6 人	技術者研修	フィリピン、ウガンダ、ケニア、ネパール
2008/09	8 人	技術者研修	フィリピン、ガーナ、カンボジア、ウガンダ、ケニア
2009/10	12 人	行政官研修	ケニア、ガーナ、ナイジェリア、ラオス、ネパール、ウガンダ、マダガスカル、インド
2010/11	54 人	行政官研修 技術者研修	マダガスカル、ネパール、ナイジェリア、インドネシア、ウガンダ、ガーナ、ケニア、キルギス
累計	80 人		

〔出所〕 Central Silk Board 資料

現在 JICA がネパールで実施中の「養蚕振興・普及プロジェクト」からは、政府職員がインドでの第三国研修に参加している。プロジェクトの終了時評価調査によれば、この研修員はインドでの行政官研修に触発され、ネパール蚕糸業への民間セクターの参入が持続可能性実現の鍵になることを理解し、専門家チームに積極的に関わるようになったという。